

1 PLAN(目的・概要)

建設整備事業

政策名	安全	28年度事業・施策評価結果			責任者	建設部 事業推進課長	
施策名	港の安全性・信頼性の向上	成果	コスト				
事務事業名	防潮扉(改良)整備事業	継続	維持	維持	連絡先 連携課	052-654-7921 <small>工事課、港湾工事事務所、施設事務所</small>	
目的	対象(誰・何を)	防潮扉				事業 期間	平成20~30年度
	意図(どうい う状態にしたいか)	高潮対策として海岸保全施設の改良等を行うことにより、海岸保全施設の機能を強化します。					
概要	整備場所:名古屋港区潮凧ふ頭、稲永ふ頭、大手ふ頭、築地・ガーデンふ頭、築地東ふ頭、大江ふ頭、昭和ふ頭、船見ふ頭、潮見ふ頭 内容・規模:防潮扉のアルミ化(軽量化)・壁体化(ランニングコストの低減) 全体工事費:5.1億円 事業手法:防災・安全交付金				根拠 法令等	社会資本整備重点計 画法 海岸保全基本計画	
事業着手時点の 評価	海岸保全施設の改良等を行うことで、海岸保全施設の機能が維持され、背後地域の生命財産を守ることができます。				実施 義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
29年度の実施予定	ガーデンふ頭の防潮扉のアルミ化(軽量化)及びガーデンふ頭、船見ふ頭の防潮扉の壁体化を行います。				関連 シート		

2 DO(実施)

29年度に実施した 内容・結果	ガーデンふ頭の防潮扉のアルミ化(軽量化)及びガーデンふ頭、船見ふ頭の防潮扉の壁体化を行いました。					
コスト	単位	27年度	28年度	29年度	合計(平成20年度~)	備考(費用の増減理由等)
工事費	千円	127,732	65,631	29,280	420,795	扉を利用しながらの施工とすることとなったため、平成27年度は工事費が増額しました。
人件費	千円	6,957	6,809	4,136	56,172	
合計	千円	134,689	72,440	33,416	476,967	

3 CHECK(検証)

指標名	27年度	28年度	29年度	最終目標	30	指標の説明・目標値の考え方	外部要因
防潮扉の改良数 (箇所) (進行管理型)	目標	44	49	54	58(累計)	防潮扉の改良(アルミ化)又は壁体化を行った箇所数です。 * 県整備水準の公表に伴う修正設計等による着手の遅れにより、平成27年度以降の目標値を見直しました。	
	実績	44	49	52			
	事業進捗状況(29年度)	○ 順調 ・ やや遅れ ・ 遅れ					
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	目標値を下回るものの、平成30年度の事業完了に向け順調に進捗しております。						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性 事業着手時に比べ必要性が低下していないか? 事業費規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○	背後地域の生命・財産を守るため、必要性は高いと考えております。					
有効性 事務事業は、施策達成に貢献するか? 期待どおりの成果が得られているか?	○	防潮扉の改良による機能強化は上位施策である「港の安全性・信頼性の向上」に貢献すると考えております。 防潮扉の改良については、閉鎖時間の短縮など防災面での確実性が向上することから、成果が得られていると考えております。					
効率性 最小のコストとなっているか?	○	コストが最小になるように精査して事業を進めています。					

4 ACTION(取組)

施策評価結果	30年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
延伸	維持	維持	防潮扉利用者との調整により施工時期を延伸する必要があるため。 ※今回の評価にて、事業完了年度を延伸(30→31年度)
課題	30年度以降の取組		
防潮扉の改良は、工事期間中の通行制限などが港湾活動や企業活動に大きな影響を及ぼすことから、利用者調整を行いつつ、進めていく必要があります。	防潮扉の改良は、利用者調整の結果、完了年度を平成31年度に延伸し整備を推進していきます。		